

2014年3月期 第3四半期決算説明会 質疑応答

2014年2月4日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

Q1：ホスピタル事業が弱い要因として、市場環境と事業起因の両面から説明していたが、どちらの影響が大きいのか、また、これらは第4四半期で解消する見通しなのか？

A1：当初、新製品（静脈留置針 サーフローV3）に期待していたが、想定以上に量産化の立ち上げに時間がかかっており、今期一杯は難しいと考えている。しかし、方向性は見えてきているので、量産化と共に売上拡大と収益改善を見込めると考えている。一方、市場環境については、価格プレッシャーや競争環境が想定以上に厳しくなっており、この傾向はある程度続くと考えている。これらは新製品やポンプの拡販などでリカバリーしていきたいと思っている。

Q2：新しい薬剤溶出型ステント（DES）の Ultimaster は、Nobori と比較して利益率はどうなっているのか、また Nobori を置き換えて行くのか？

A2：Nobori は Biosensors 社から技術供与を受けており、ロイヤリティを支払っていたが、今回の Ultimaster に関しては、完全自社開発であるため収益率は大きく改善すると期待している。マーケティング的には、Nobori を置き換えて行くことになる。

Q3：TCVS 社の品質システム改善活動の進捗とコストの発生状況は？

A3：1月に予定通り FDA の監査が入り、販売制限解除に向けて順調に進捗している。改善活動への投資額は Q3 で 8 億円、累計では 35 億円となった。年間 40 億円程度の想定は変わっていない。

Q4：業績予想の営業利益 700 億円の達成には、第4四半期の営業利益が 217 億円と第3四半期実績の 178 億円から約 40 億円の増益が必要になるが、具体的な増益要因はどのようなものか？

A4：主な増益要因としては、為替、増売及び収益改善を想定している。この中では、増売による寄与が大きいと考えており、具体的なドライバーとしては、心臓血管領域事業が 11 月に日本で発売した PTCA バルーン Hiryu Plus や 2 月に発売予定のペリフェラルステント Misago の長物（Misago Long）、血液事業で Q3 から Q4 に発注が延期された成分採血装置などがある。

Q5：第4四半期では普通、第3四半期と比較して粗利率も営業利益率も下がる傾向にあるが、第4四半期でホスピタル事業が改善する見込みがあるのか、見込みがあるのであれば足元で既にある程度の受注が見込めているはずであるが、足元の状況はどうか？

A5：ポンプに関しては、国内病院の年度予算の関係で年度末に発注が出てくるが、その見込みに関してはある程度把握しており、在庫の積み上げ含め対応する準備はできている。サーフローV3に関しては、少し時間がかかっているが、方向は見えてきている。現場の評価は非常に高いと聞いているので、来年度に向けても良い方向に持っていきけるのではないかと考えている。

Q6：投資額の見通しが50億円ほど上方修正されたが、償却費が据え置きになっている理由は？

A6：設備投資は計画通り進んでいるが、一部、次年度分の投資計画を前倒したことでより、見通しを上方修正した。その分、来期の設備投資は減額になる予定。前倒した設備が稼働前であるため、償却費には影響しない。

Q7：欧州のペリフェラルステント（膝下）の適用には膝窩動脈（Popliteal）が含まれるのか？

A7：CE認証では、具体的な適用部位は付かないが、サイズの膝窩動脈（Popliteal）とBTK（Below The Knee）になる。

Q8：第3四半期の粗利率が第2四半期と比較して悪化している要因は？

A8：粗利率の悪化は、幾つかのホスピタル製品の組み合わせで発生していると考えている。例えば、ドラッグ&デバイス事業の受託ビジネスの発注が第3四半期から第4四半期に動いたことやDM事業の第3四半期の売上が第2四半期の高い伸びの反動で弱含んだことなど、収益性の高い製品の売上が減少した。また、汎用医療機器の価格下落なども粗利率悪化に影響していると考えている。これらのうち期ズレのものはある程度第4四半期に戻って来ると考えており、新製品の生産性改善も含めて粗利率を上げて行きたいと考えている。

Q9：薬価改定の影響はどの程度か？

A9：現在、情報収集をしている最中であり、明確に回答できる段階にはないが、当初想定範囲を大幅に上回ることはないと考えている。

Q10：売上と経常利益の進捗はほぼ75%であるが、これは計画通りという理解で良いか？

A10：為替影響を考慮した額であるため、社内的には未達と認識している。

Q11：第3四半期累計で為替差益が46億円あるが、期末に向けてどうなっていくのか？

A11：第3四半期末の米ドルレートが105円と最後に急激に円安方向に振れた。営業外の為替差損益は外貨建ての売掛金などの為替の評価なので、期中平均レートではなく、期末レートの105円で評価されている。第4四半期の為替想定は102円で見ているので、為替差益は第4四半期に向けて圧縮される方向になると考えている。

以上